
第 260 号

2009 年 4 月 12 日

日 本 気 象 学 会
関 西 支 部 ニ ュ ー ス

- 関西支部第 28 期第 2 回から第 5 回常任理事会の報告
- 2008 年度関西支部例会・講演会開催の報告
- 2009 年 4 月 1 日 日本気象学会関西支部役員変更
- 2009 年度関西支部理事会・総会・年会の開催
- 「第 2 回気象サイエンスカフェ in 関西」の報告
- 関西支部第 31 回夏季大学の開催予定
- 2009 年度関西支部例会開催の募集
- 2009 年度関西支部調査研究奨励金受領候補者の募集
- メールアドレス登録のお願い
- 住所変更届のお願い

〒 540-0008
大阪市中央区大手前 4 丁目 1-76
大阪合同庁舎第四号館
大阪管区气象台内
日本気象学会関西支部
振替 00980-5-18318
TEL (06)6949-6595
FAX (06)6944-2121

ホームページ <http://www.k3.dion.ne.jp/~msj-knsi/>

E-mail msj-kns@s2.dion.ne.jp

(注:メールアドレスはスパム対策のため全角で記しています。メール送信の際には半角で入力してください.)

○関西支部第 28 期第 2 回から第 5 回常任理事会の報告

本年度第 2 回から第 5 回の常任理事会を以下のとおり開催しました。

なお、議事の詳細については関西支部のホームページにある「関西支部常任理事会議事録のページ」

http://www.k3.dion.ne.jp/~msj-knsi/meeting/meeting_log.html

をご覧ください。

第 28 期第 2 回常任理事会 2008 年 9 月 29 日 (月)

- 1 夏季大学の報告
- 2 支部発行過去文献の電子化
- 3 第2回気象サイエンスカフェ進捗状況
- 4 本部との会計統合後の事務処理 本部提案と支部の対応
- 5 第3回地区例会 (近畿地区) 地区例会進捗状況
- 6 その他

第 28 期第 3 回常任理事会 2008 年 11 月 28 日 (金)

- 1 第2回気象サイエンスカフェ
- 2 支部発行過去文献の電子化
- 3 本部理事会概要報告 (会計統合後の課題など)
- 4 「天気」地区編集委員選出 (堀之内先生の後任)
- 5 夏季大学アンケートの集計
- 6 その他

第 28 期第 4 回常任理事会 2009 年 2 月 6 日 (金)

- 1 2010年気象学会秋季大会について
- 2 第3回地区例会（近畿地区）について
- 3 第2回気象サイエンスカフェ報告および第3回気象サイエンスカフェの開催について
- 4 2009年度支部独自活動計画報告とその後
- 5 その他

第 28 期第 5 回常任理事会 2009 年 3 月 24 日（火）

- 1 2009年度関西支部理事会・総会・年会の開催について
- 2 第31回夏季大学について
- 3 2010年度秋季大会の準備状況について
- 4 会計統合にむけての収支報告について
- 5 本部理事会報告
- 6 支部ニュース（第260号）の発行予定
- 7 第3回地区例会（近畿地区）開催報告
- 8 その他

○ 2008 年度 関西支部例会・講演会開催の報告

第 1 回例会（中国地区、広島市東区文化センターで開催）

今年度第 1 回例会を 2008 年 11 月 8 日（土）広島市東区文化センターで開催した。例年中国地区例会は約 50 名の参加者があるが、大学行事との関係などで約 25 名の参加となった。

一般講演では、前半を辻村（広島地方気象台）、後半を塚本修先生（岡山大学）の座長のもとに、二酸化炭素フラックスの季節変化や年々変動、広島風、倒木被害、海風、短時間の大雨、大雨発生頻度、降雨強度、霧の詳細な観測に基づく局地循環などに関して、計 9 題の発表が行なわれた。発表題数が予想より少なかった分、質疑応答に充てる時間的余裕があったため、突っ込んだ議論が出来たことは有意義であったかと思う。なお、プレゼン用ソフトウェアの新版への対応に手間取ってしまい、講演者の方にご迷惑をおかけしてしまった。次回以降の反省点として対応策について話し合い、結果を関係者に伝えた。



特別講演では、西本洋相台長（広島地方気象台）の座長のもとに、気象庁数値予報課の石田純一予報官に「気象庁現業モデルの現在と今後」という題で、講演して頂いた。前半は数値予報モデルの歴史、概略、世界各国のモデル、日本のモデルの性能など基本的な事項について、後半は防災面での

の数値予報の有効活用に配慮した内容で、MSM を中心とした解説と現在開発中の LFM、メソアンサンブル予報、スパコン事情から PC クラスタを意識したモデル作りまで、非常に広範囲のお話をして頂き、現在の数値予報の技術および今後の発展についての理解を深めることができた。

なお、中国地区では、広く気象についての理解を深めて頂くための教育普及活動の一環として、特別講演に限って気象庁現業モデルに関心の高いと思われる気象学会員以外の大学関係者をはじめ、地方自治体や地域の防災関係者（県・市町の河川関係者、土木関係者）及び、予報士、防災士の方々に案内させていただいた。例会終了後、同センター 2 階の喫茶ウエルにおいて懇親会を行い、多様な会員相互で一般講演・特別講演に関する質疑に引き続いた議論を深め、外国のモデルや風土の違い、大学や研究での現状と今後、防災活動への取り組みなど様々な議論の輪を広げることができた。

最後に、特別講演をお引き受けいただいた気象庁数値予報課の石田純一氏と、会場の手配・設営及び例会の運営にご支援とご協力をいただいた関係者の皆様に、改めてお礼を申し上げる。

（広島地方気象台 辻村豊）

第 2 回例会（四国地区、徳島大学工業会館で開催）

第 2 回例会は、2008 年 12 月 13 日（土）に徳島大学工業会館で開催され、特別講演の講師のほかに、四国・中国・近畿地方から計 56 名の参加があった。例会の徳島市での開催は初めてと思われる。

最初に、気象研究所の瀬古弘主任研究官による特別講演が「線状降水帯の構造と維持機構」という演題で行なわれた。線状降水帯は大雨災害の要因のひとつで、四国地方でも太平洋側でしばしば形成され、長年調査研究のテーマとなっている。瀬古氏は、関東地方や近畿地方などで形成された線状降水帯の事例解析、数値モデルによる再現実験を紹介されるとともに、それらを基に構築された 3 つの概念モデル（スコールライン型、バックビルディング型、バック・アンド・サイドビルディング型）を紹介された。3 つの型は下層風の風向に相対的な中層風の風向の違いに着目して分類されたもので、参加者一同、線状降水帯への理解を深めることができた。

一般講演では、前半を寺尾徹会員（香川大学）、後半を金森恒雄会員（神戸海洋気象台）の座長のもとに、線状降水帯、突風災害、落雷、やまじ風、四国地方での人工降雨実験観測、梅雨期の東アジアの水蒸気場、及び大気海洋間の二酸化炭素フラックスに関して、計 15 題の発表が行なわれた。一題あたりの講演時間は質疑を含めて 12 分と短かったが、密度の濃い発表と意見交換が行われた。例会としてのテーマは設定しなかったが、線状降水帯に関する発表が半数近くの 6 題もあり、特別講演と合わせると、「線状降水帯」が前半のテーマの観があった。

例会終了後、工業会館喫茶において懇親会が行なわれた。39 名の参加があり、昼間の議論を深めるとともに、親睦を深めることができた。

最後に、特別講演をお引き受けいただいた気象研究所の瀬古弘氏と、会場の手配・設営及び例会の運営にご支援とご協力をいただいた関係者の皆様に、改めてお礼を申し上げます。

（元高松地方気象台 木村吉宏）

第 3 回例会（近畿地区、神戸大学六甲台地区 瀧川記念学術交流会館で開催）

日本気象学会関西支部と海洋気象学会の合同例会を 2009 年 2 月 21 日（土）、13 時過ぎから 17 時過ぎにかけて、神戸大学 六甲台地区 瀧川記念学術交流会館において開催した。

当日は北海道の東で低気圧が猛烈に発達して冬型の気圧配置が強まり、神戸の最高気温が 8.3 度と、近畿地方でも肌寒い一日となったが、気象学会と海洋気象学会の構成員を中心に 55 名が参加し、熱心な発表と活発な議論がくりひろげられた。

発表総数は 13 題で、大まかに気象学一般、事例解析、海洋関係 3 つのセッションに分け、発表いただいた。

最初に瀬上気象学会支部長から、「かつて学会では昭和 28 年の発足以来昭和 49 年まで 22 年間に亘って毎月例会を行ってきた。その後原則として年 4 回の例会の開催を行い、近畿では海洋気象学会との合同開催が図られてきた。」ことなどの歴史的経緯について紹介があり、昭和 50 年の例会講演要旨集創刊号における山元龍三郎支部長の巻頭言から、『所属の異なる気象技術者・研究者の学問的技術的交換の場として、学会が大いに会員諸氏に利用されるよう希望する。気象技術者が現場で遭遇した新しい問題に対する取り組み方については、気象研究者から、有益な示唆が与えられることが望まれ、大学の研究者の発表する理論結果に対しては、現場の豊富な経験と対比して、技術者からの批判が期



（左）冒頭に挨拶する瀬上支部長、（中）会場の様子、（右）大山海洋気象学会理事長の終わりの挨拶

待される。会員諸氏が、それぞれの立場、経験により、支部の例会を大いに利用され、有意義なものに育てられることを切に希望する次第である』という言葉を用いて、「この内容は今でも変わっておらず、本日の例会でもこのことを念頭に活発な議論を期待したい。」との挨拶があった。

本例会における発表は、発表 12 分、質疑 3 分の計 15 分という時間配分で行った。内容的には、気象と海洋気象の両学会合同の例会であることを反映して、色々な気象モデルの評価から大雨の事例解析、大気と海洋中の温室効果ガスの測定など、非常にバラエティーに富んだ内容の発表がくりひろげられ、短時間ながら活発な質疑が行われた。

最近の傾向として、数値シミュレーションを用いた研究事例が多くなっていることが挙げられるが、モデル出力の結果を正しく理解することはなかなか難しい問題はあるものの、非常に重要なことであると思われた。

発表は 5 分程度予定より遅れたものの、17 時過ぎには全て終了し、大山海洋気象学会理事長から次の閉会の挨拶があった。

「海洋気象学会の内容はどちらかと言えば海上気象に属する事柄が多く、気象とお互いの内容を補完しあうものである。どちらも地球における流体をテーマとし、地球環境問題に大きく関わっていることから互いの境界が薄れてきているように思う。このような中、海洋と気象両者の意見交換ができる場として、今後もこのような例会の継続が期待される。」

このあと、隣の神戸大学生協 LANS BOX に会場を移し、27 人（内、学生 5 人）の参加を得て、例会では十分に議論できなかった内容などを更に深めたり、お互いの懇親を図ったりして、夜遅くまで話が尽きなかった。

最後に、今回会場を提供していただいた神戸大学と、当日の準備や運営にご尽力頂いた神戸大学関係者の方々、及び、協力頂いた学生の皆様にこの場をお借りして、改めてお礼申し上げる。

(大阪管区気象台 中山繁樹)

○2009 年 4 月 1 日 日本気象学会関西支部役員変更

日本気象学会関西支部長は、4 月期異動に伴い、2009 年 4 月 1 日、次の会員を地区理事に推薦ならびに幹事に指名しました。

四国地区理事： 木村 吉宏地区理事の異動に伴い、後任に森 滋男会員を推薦。

幹事： 牧田 広道幹事の辞任に伴い、諸岡 浩子会員（大阪管区気象台）、高橋 清和会員（大阪管区気象台）に幹事を指名。

日本気象学会関西支部規約抜粋

第 8 条 本支部に次の役員をおく。

理事 13 名 会計監査 1 名 幹事 若干名

理事のうち 7 名を常任理事（うち支部長 1 名を含む）とし、その他を地区理事とする。

第 9 条 理事および会計監査は次に定めるところに従い、支部会員のうちから支部会員の無記名投票によって選挙し、その方法は細則によって定める。

1. 常任理事および会計監査は、支部会員が近畿地区（滋賀、京都、大阪、奈良、和歌山、兵庫各府県）在住の支部会員のうちから選挙する。

2. 地区理事は、細則に定める地区毎の定数を各地区内の支部会員が各地区内の支部会員のうちから選挙する。

第 10 条 略

第 11 条 幹事は支部長の指名による。

日本気象学会関西支部役員選挙細則抜粋

6. 役員が、該当する地区の外に異動したときは失格とする。

7. 役員が特別の事情により辞任を申し出た場合は、その任期中においても、常任理事会の議決により、解任することができる。

8. 役員に欠員が生じた場合は、次点者を後任役員とする。次点者がいない場合は、常任理事会の議を経て、支部長は該当する地区の会員から、後任役員を推薦することができる。支部長が推薦した後任役員は、

総会で選任されるまでの間、役員に準じて職務を行うことができる。後任役員の任期は、前任者の残り期間とする。

○ 2009 年度関西支部 理事会・総会・年会の開催

2009 年度の関西支部理事会、総会および年会を以下のとおり開催しますので、多数のご参加をお願いします。

開催日：2009 年 6 月 27 日（土）11 時～17 時

理事会…11 時～12 時

総 会…13 時～13 時50 分

年 会…14 時～

場 所：エル大阪（南館 102 号室）

〒540-0031 大阪市中央区北浜東 3-14

アクセス：京阪・地下鉄谷町線・京阪電鉄「天満橋」駅から西へ 300m。JR 東西線「大阪天満宮」駅より南へ 850m

電 話：(06) 6942-0001 ファックス：(06) 6942-1933

メールアドレス：ork@l-osaka.or.jp



【総会について】

1. 総会提出議題

総会に提出したい議題があれば、4 月 30 日（木）までに関西支部事務局へ郵便、メールなどでお知らせください。

2. 総会委任状について

御存知のように総会成立に要する定数が通常会員数の「2 分の 1」以上という極めて厳しい条件に変わっています。**通常会員は、総会に出席される方も出席されない方も全員、郵送等で委任状を関西支部事務局に提出**していただきますようご協力をお願いします。総会に出席された場合は、総会における意思表示が委任状よりも優先されます。

3. 総会資料について

総会資料は、開催日までに関西支部ホームページでお知らせします。なお、**通常会員には委任状用紙とともに郵送**します。

【年会について】

1. 発表申込締切日

2009 年 5 月 22 日（金）

2. 原稿締切日

2009 年 5 月 22 日（金）

3. 発表時間

1 題につき概ね 15 分の予定です。

4. 発表申し込みについて

○ 申込先（西 憲敬幹事）

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町 京都大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻
西 憲敬 行き

E-mail アドレス：msj-kns@s2.dion.ne.jp

○ 申込方法 下記の書式で、郵便または電子メール（締切日必着）で申し込んで下さい。FAX、電話での申し込みは受け付けておりません。

○ 要旨集用の原稿作成の際は「日本気象学会関西支部予稿集・要旨集原稿作成要領」に従って下さい。

原稿作成要領は関西支部ホームページ

<http://www.k3.dion.ne.jp/~msj-knsi/regular/genko.html>

でご覧になれます。ホームページをご覧になれない場合は、申込先にご請求ください。なお、所属は正式名称でお願いします。

○ 要旨集用の原稿は発表申込先と同じ宛先に郵便でお送りください。

(義務等)

8. 助成を受けた者は、当該例会・年会で発表するものとする。

(雑則)

9. その他必要なことは常任理事会で協議し決定する。

(付則)

この要領は平成 13 年 6 月 23 日から施行する。

○「第2回気象サイエンスカフェin関西」の報告

2008年12月4日(木)の18時～20時に、大阪心齋橋英國屋本店にて「第2回気象サイエンスカフェin関西」を気象学会関西支部と関西気象予報士会の共催でおこないました。

ゲストには京都大学防災研究所教授の向川均さんをお招きし、「地球温暖化と異常気象～温暖化すると気候はどう変化するのでしょうか～」というテーマで、温暖化の現状や予測、今年の夏の気象との関連などについて話題提供していただきました。

詳しくは、支部ホームページの〔サイエンスカフェ〕のボタンから〔「第2回気象サイエンスカフェin関西」の報告〕をご覧ください。

http://www.k3.dion.ne.jp/~msj-knsi/science_cafe/2_report.pdf

○ 関西支部第31回夏季大学の開催予定

関西支部第31回夏季大学を2009年8月29日(土)に「集中豪雨とメソ気象」のテーマで、キャンパスプラザ京都(JR京都駅前)において開催する予定です。

従来とは異なり、今回初めて、これまでの受講者の意見や会場確保の状況も考慮して、1日間の開催(午前1講座、午後2講座)とすることとしました。

詳細については今後の「支部ニュース」・「支部ホームページ」や「『天気』支部だより」でお知らせします。

○ 2009年度関西支部例会開催の募集

2009年度関西支部例会の開催および開催場所を下記細則により募集します。

例会の開催を希望される会員は、各地区理事を通じて支部長宛申し込んでください。申込締切日は4月30日(木)です。

送付先(研究発表担当:向川 均常任理事)

〒:611-0011 宇治市五ヶ庄 京都大学防災研究所気象・水象災害研究部門
向川 均行き

E-mail: msj-kns@s2.dion.ne.jp

(目的)

1. 気象学の研究を盛んにし、その進歩を図り、支部会員相互の情報交換等を図るために例会を開催する。

(開催・開催場所)

2. 開催及び開催場所は、原則として、第3項の開催条件をもとに、第5項の募集により常任理事会において決定する。なお、各地区理事は各地区で少なくとも年1回以上例会を開催するよう努力するものとする。

(開催条件)

3. 要望主体者側でテーマの選定、会場の確保を始めとする例会の運営をすべて行う。但し、必要な場合は、常任理事、地区理事の支援を求めることが出来る。

なお、講演の申込み受け、予稿集の作成、配布、学会員への周知(支部ニュース)は事務局で行い、運営経費として2万円を支部が負担する。

(開催回数)

4. 開催総数は年に最高5回までとする。

(要望手続き)

5. 開催、開催場所の要望については、毎年募集(支部ニュース)することとし、各地区理事を通じて支部長あてに申込むものとする。

